

1 研究主題

「学びに夢中になる子どもの育成～教科の本質に触れる授業づくり～」＜1年目＞

2 主題設定にあたって

これまでの研究から

本校では、平成25年度から児童につけたい力を考え、自作教材（大魔王シリーズ）を活用した取り組みを行ってきた。平成30年度からは「主体的に学びを生かそうとする児童の育成」を研究主題とし、算数科における自作教材（算数大魔王）を活用した学校研究を行ってきた。

課題を友だちとともに解決していく経験を積み、その楽しさを感じながら学習できる児童が多くなった。パフォーマンス課題に取り組むことで、教科の楽しさに触れ、学ぶ楽しさを感じることができるようになってきた。また、授業でどんなことがわかったかわからなかったかについて書くふり返し（算数日記）に力を入れることで、公式やきまりは覚えるだけでなく、その意味やわけを知ろうとする児童が増えた。その一方で、算数の学習や算数大魔王の学習に対して、肯定的にとらえていない児童もいた。

わからないことを伝えられるようになってきた児童が多くなり、友だちとともに考え解決しようとするようになってきた。わからないことを最後まで聴こうとすること、友だちが本当にわかるまで伝えようとするのがこれからの課題として残った。

児童の実態から

本校の児童は、指示されたことなどにはまじめに取り組むことができ、ほとんどの児童が、学習は大切で、将来役に立つと考えている。しかし、自分で判断し行動すること、主体的に考えを伝えたり、様々な考え方を見つけたりすることが苦手である。また、学習してすぐは内容について理解しているが、長期的な理解につながらないことも見られる。

これからは、様々な変化に向き合い、他者とともに課題を解決していく力を児童に身につけていくことが求められている。

これまでの研究から、課題、学び合い、ふり返りの重要性を感じてきた。算数科だけでなく、いろいろな教科の楽しさを感じることで、学びに対する意欲が高まると考える。引き続き、3つの授業改善の視点（課題、学び合い、ふり返し）で取り組み、児童がどんな時に夢中に学んでいるのかを探っていく。その中で、児童の変容を見つめていきたい。そのために、教師も自ら主体的に学ぶ姿勢を形成していきたい。

3 授業改善の視点

<p>視点1</p> <p>児童が夢中になって学べる課題になっていたか。</p> <ul style="list-style-type: none">・児童の実態を把握しての課題作成と提示（大きな課題）・教科の特性や単元構成を考えた課題。・児童が自ら追求したくなる課題、考えを深めたくなる課題	<p>視点2</p> <p>学び合いを通して、学びを深めていたか。</p> <ul style="list-style-type: none">・児童同士の学び合い、試行錯誤を大切にする。・教師は、子どもたちの学びを深めるためのコーディネートをする。・学び合いを深めるためのツールの活用。（例：思考ツール、タブレット等）	<p>視点3</p> <p>ふりかえりを通して、児童は、変容を実感できたか</p> <ul style="list-style-type: none">・ふりかえりを通して、自己の変容を実感できるようにする。 →自己肯定感の高まりにつながるように・子どもと教師が評価を共有する。
--	--	--

日常的な研修・実践

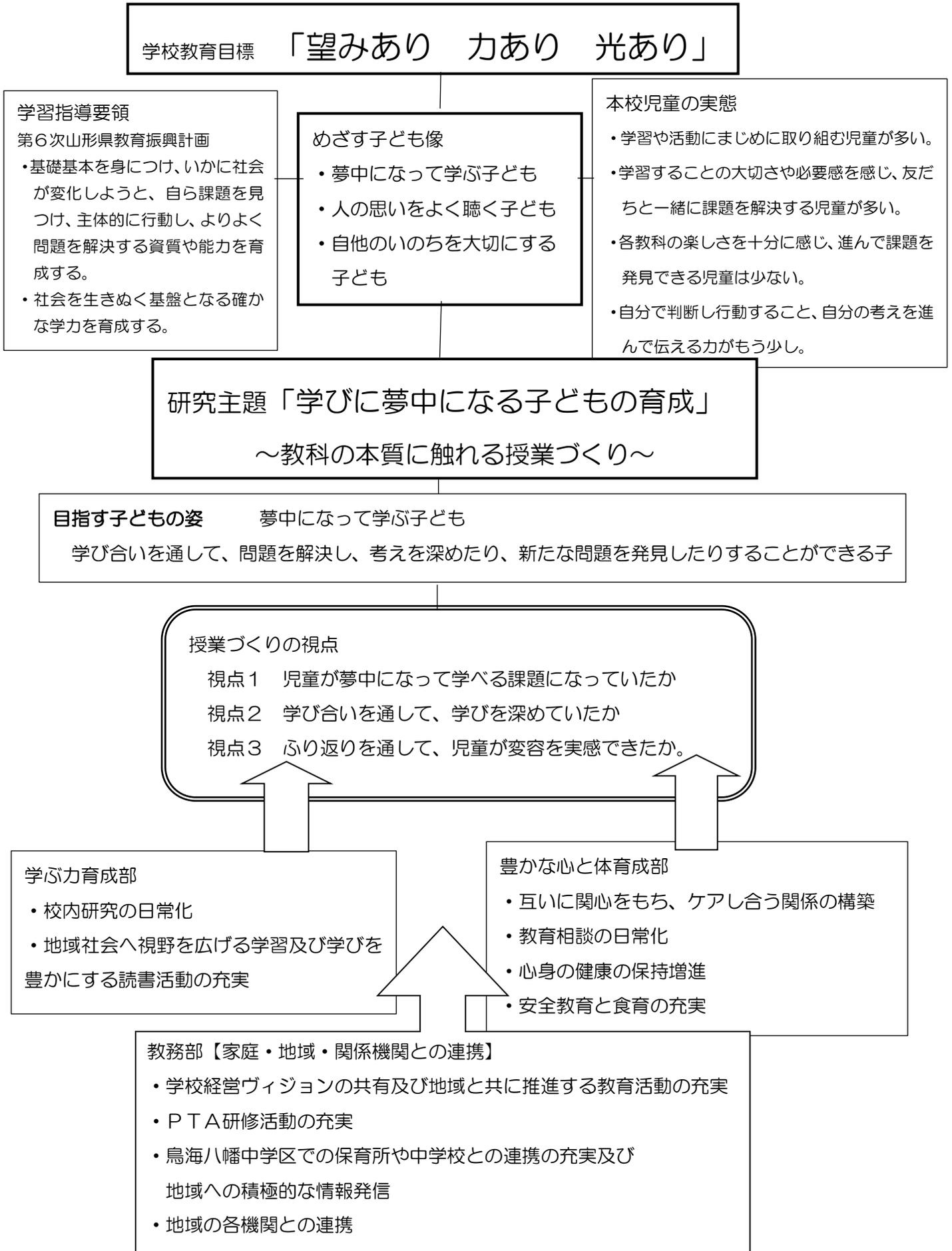
日々の授業の改善（学び合いを意識した、授業づくり）

学級開きから、学び合う風土づくりをする。

普段から教師はお互いの授業を見合い、教師も学ぶことができるようにする。

様々な研修会、他校の授業研究会への参加とフィードバック

4 研究の全体構想図



5 令和3年度 学校研究推進計画 予定

月	日	曜	内容	授業者	司会	記録
4	5	月	研究推進委員会 今年度の研究の方向性と重点 授業づくりの視点			
4	21	水	第1回学校研究全体会 今年度の研究の方向性と重点 授業づくりの視点		副研究 主任	研究主任
5	6	木	事前研①			
5	17	月	学区全体研修会			
5	21	金	第1回校内授業研究会 森田先生来校	全学年通覧 5年 信夫 つくし 齋藤	教務主任	
9	15	水	事前研②			
9	30	木	第2回校内授業研究会 森田先生来校	全学年通覧 3・4年門田 たんぼ松田	教務主任	
10	13	水	鳥海八幡学区外国語授業研 (一條小)	〇年 渡邊		
11	10	水	事前研③			
11	12	金	学区授業研究会(鳥海八幡中)			
11	29	月	第3回校内授業研究会 森田先生来校 *単元研究公開	全学年通覧 1年 尾形 6年 渡邊	教務主任	
1	26	水	第2回学校研究全体会、事前研④ 校内授業研究会の成果と課題来年度 の方向性		副研究 主任	
2	9	水	第4回校内授業研究会 森田先生来校	全学年通覧 2年 小松	教務主任	
3			研究紀要原稿提出 研究紀要完成・関係機関への送付 *委員会、事務所、 鳥八学区の3校へ			

※授業は、基本的に2・3時間目に設定し、事後研は、放課後に行う。

6 校内授業研究会の持ち方

- 事前研はブロックで行う。
- 事前研では、共に授業を作るという視点で、自分だったらと考え取り組むようにする。
- 授業を参観しながら、写真や動画で撮影する。

撮影する視点 子どもが夢中に切り替わった

子どもが夢中→ダウン

- 事後研究会はブロックごとに

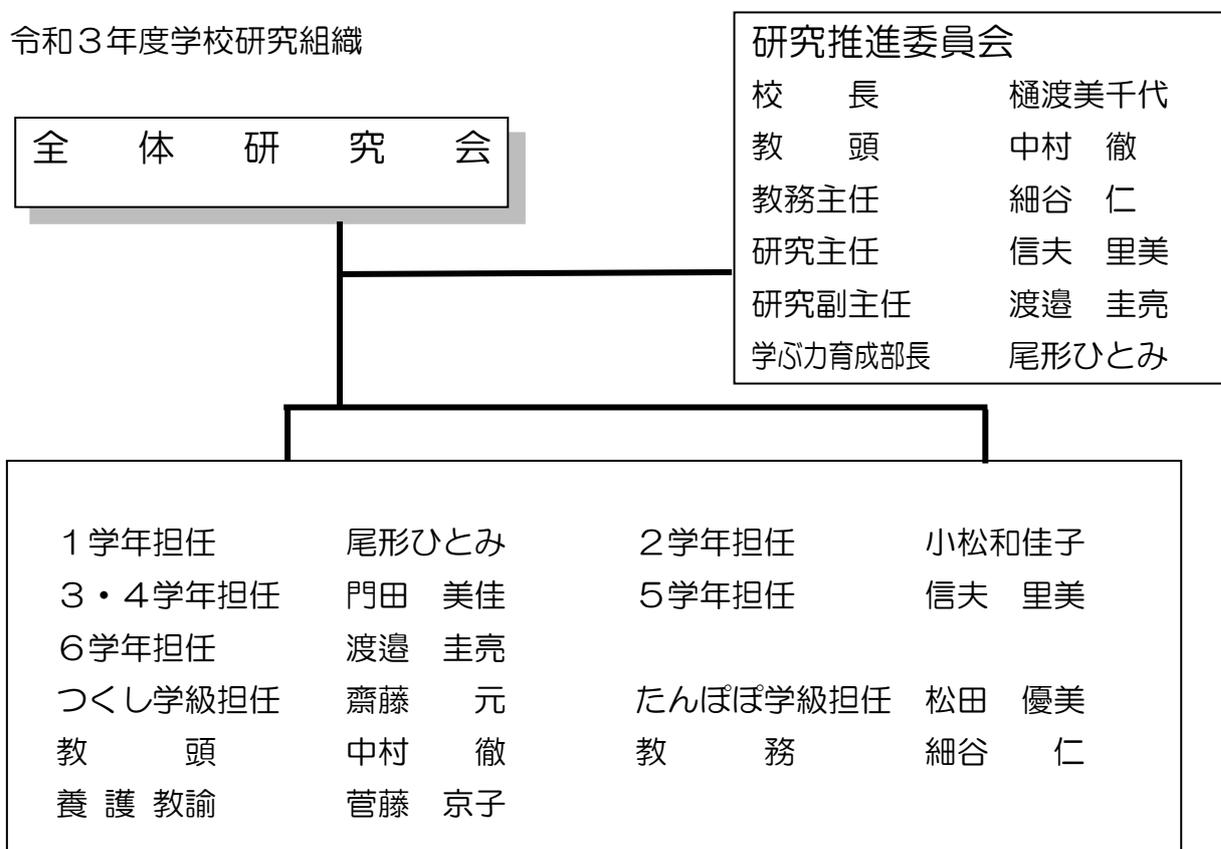
撮影したものを提示しながら、「夢中になって学ぶ」ということについて考える。

どんな手立てがよかったか。

どうすればさらによかったか。自分ならどうするか。

- 研究授業の日、課題についてや、学び合い、ふり返りの在り方など、日常の実践をしている中で感じていることについて意見交換を行う。
- 児童の「めざす姿」が授業を通してどうなったのかを、児童の表情や言葉と児童の「ふりかえり」などをもとに明らかにしていく。
- 参観者は、事後研後に写真資料を使い、ふり返りをまとめる。(授業研で学んだこと)
→1年間記録(ストック)し、教師自身も変容を感じられるようにする。
→自分の学級の普段の様子もできる範囲で記録し、児童の変容に目を向けられるようにする。

7 令和3年度学校研究組織



* 2つのグループに分かれて、事前研事後研を行う。